

山梨県景気動向指数(DI)

平成26年1月分

景気の現状を示す**一致指数**は、「鉱工業生産指数(鉱工業)」や「県立美術館・富士ビジターセンター来館者数」などが引続きプラスであったことから、100.0%となり、12か月連続で50%を上回りました。

景気の先行きを示す**先行指数**は、2か月連続で50.0%となりました。

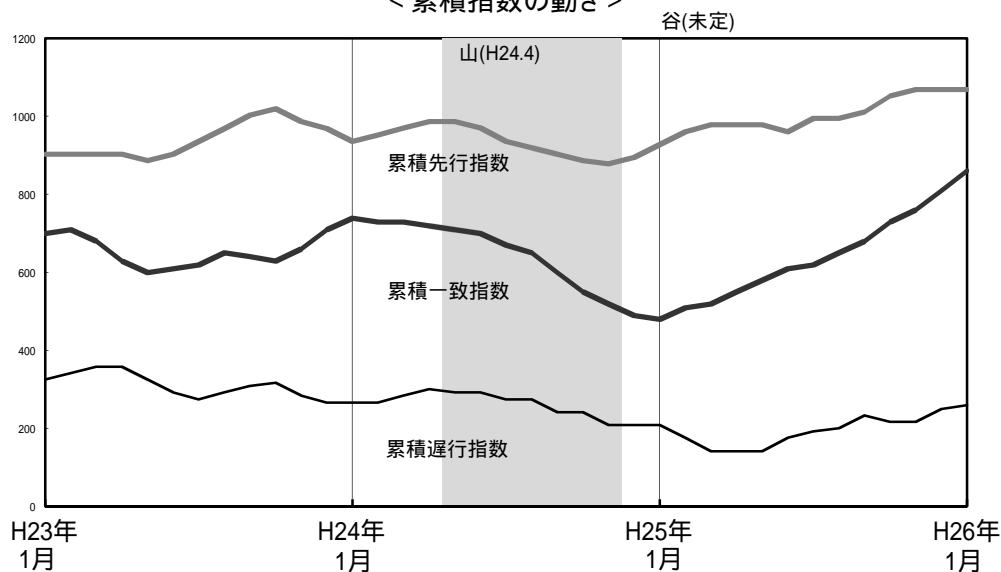
景気に遅れて動きを示す**遅行指数**は、2か月連続で50%を上回りました。

＜過去1年間の指数の動き＞

(単位 %)

月	H25.1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	H26.1
先行指数	83.3	83.3	66.7	50.0	50.0	33.3	83.3	50.0	66.7	91.7	66.7	50.0	50.0
一致指数	40.0	80.0	60.0	80.0	80.0	80.0	60.0	80.0	80.0	100.0	80.0	100.0	100.0
遅行指数	50.0	16.7	16.7	50.0	50.0	83.3	66.7	58.3	83.3	33.3	50.0	83.3	60.0

＜累積指数の動き＞



(注1) 累積指数グラフは、景気の局面や山・谷を視覚的にとらえることができます。ただし、グラフ上の山の大きさや高さは景気の強弱や水準とは無関係です。なお、累積指数は各月のDI指数を次式により累積したものです。

$$\text{累積DI} = \text{前月までの累積DI} + (\text{当月のDI} - 50)$$

(注2) グラフを見やすくするため、先行指数は1100、一致指数は300を加算しています。

(注3) グラフ中の山・谷は内閣府発表による全国の景気基準日付です。また、網かけ部分は、景気後退期

(問い合わせ先)
 山梨県企画県民部統計調査課 分析担当
 電話(直通)055-223-1344 (内線)1506

各系列の1月の変化方向

先行指数 50.0% … 2か月連続で50.0%となりました。
 一致指数 100.0% … 12か月連続で50%を上回りました。
 遅行指数 60.0% … 2か月連続で50%を上回りました。

個別系列の動向

	プラスの系列	連続 月数	マイナスの系列	連続 月数
先行 系列	鉱工業在庫率指数(逆)*	2	新設住宅着工戸数[前]	3
	鉱工業生産指数(生産財)	7	東証業種別株価指数(電気機器)[前]	2
	新規求人数(新規学卒を除く全数)	4	法人企業景気予測調査・貴社の景況判断BSI (中小企業 全産業 翌期)	2
一 致 系列	鉱工業生産指数(鉱工業)	2		
	電力大口使用量	8		
	所定外労働時間指数(製造業30人以上)	6		
	有効求人倍率(新規学卒を除く全数)	13		
	県立美術館・富士ビジターセンター来館者数	6		
遅 行 系列	家計消費支出(二人以上の世帯)	3	第3次産業活動指数(対事業所サービス業)	4
	常用雇用指数(製造業30人以上)	5	法人事業税(調定額)	1
	有効求職者数(逆)*	13		

(逆)*とは逆サイクルのことを示し、採用系列が景気の動きに対し反対の方向に動くことをいいます。
 例)有効求職者数…求職者数が増加することはマイナス要因となるので、マイナスの系列になります。
 [前]は前年同月比を表します。

景気動向指数(DI)とは

・景気動向指数は、鉱工業生産指数や電力大口使用量など景気の動きに敏感な各経済部門から選ばれた系列の動きを統合して、単一の系列によって景気の動向を捉えようとしたもので、先行、一致、遅行の各系列の採用系列の変化を3か月前と比較し、改善した系列の割合で、景気の改善、悪化等その局面の方向性を示すものです。

採用している基礎統計が確報値を公表するなどした場合、過去に遡って改訂します。
 先行系列の「県新規求人数」及び一致系列の「県有効求人倍率」並びに遅行系列の「有効求職者数」は、季節調整替えにより改訂されたため、また、先行系列及び一致系列の「鉱工業指数」は、基準年変更により改訂されたため、先行指数及び一致指数並びに遅行指数を遡及改訂しました。

図表1 山梨県景気動向指数変化方向表

系列名		平成25年												平成26年
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
先行系列	1 鉱工業在庫率指数(逆)*	+	+	+	-	-	-	+	-	-	0	-	+	+
	2 鉱工業生産指数(生産財)	-	+	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+
	3 新規求人数(新規学卒を除く全数)	+	+	+	+	+	+	+	-	-	+	+	+	+
	4 新設住宅着工戸数[前]	+	-	+	-	+	-	+	+	+	+	-	-	-
	5 東証業種別株価指数(電気機器)[前]	+	+	-	+	+	+	+	-	+	+	+	-	-
	6 法人企業景気予測調査・貴社の景況判断BSI(中小企業 全産業 翌期) 注1	+	+	+	+	-	-	-	+	+	+	+	-	-
	拡張系列	5	5	4	3	3	2	5	3	4	5.5	4	3	3
採用系列	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	
先行指数(D.I.) (%)		83.3	83.3	66.7	50.0	50.0	33.3	83.3	50.0	66.7	91.7	66.7	50.0	50.0
一致系列	1 鉱工業生産指数(鉱工業)	-	+	+	+	+	-	+	-	-	+	-	+	+
	2 電力大口使用量	-	+	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+	+
	3 所定外労働時間指数(製造業30人以上)	-	-	+	+	+	+	-	+	+	+	+	+	+
	4 有効求人倍率(新規学卒を除く全数)	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
	5 県立美術館・富士ビジターセンター来館者数	+	+	-	+	+	+	-	+	+	+	+	+	+
	拡張系列	2	4	3	4	4	4	3	4	4	5	4	5	5
	採用系列	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
一致指数(D.I.) (%)		40.0	80.0	60.0	80.0	80.0	80.0	60.0	80.0	80.0	100.0	80.0	100.0	100.0
遅行系列	1 実質法人企業設備投資(製造業) 注1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	+	-
	2 第3次産業活動指数(対事業所サービス業)	-	-	-	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-
	3 家計消費支出(二人以上の世帯)	+	-	-	-	-	+	-	-	+	-	+	+	+
	4 常用雇用指数(製造業30人以上)[前]	-	-	-	+	+	+	+	0	+	+	+	+	+
	5 有効求職者数(逆)	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
	6 法人事業税(調定額)	+	-	-	-	-	+	+	+	+	-	-	+	-
	拡張系列	3	1	1	3	3	5	4	3.5	5	2	3	5	3
採用系列	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	5	
遅行指数(D.I.) (%)		50.0	16.7	16.7	50.0	50.0	83.3	66.7	58.3	83.3	33.3	50.0	83.3	60.0

注1 「先行系列6 法人企業景気予測調査・貴社の景況判断BSI(中小企業 全産業 翌期)」及び実質法人企業設備投資(製造業) は四半期データであるため、四半期に該当する3か月のそれぞれの変化量を等しいとして線形補間しています。(4 - 6月期であれば6月に四半期値を代入)

注2 今回修正した指数は斜体文字で表しています。

(参考：経済関係レポート等抜粋)

月例経済報告(平成26年3月・内閣府・平成26年3月17日公表)

景気は、緩やかに回復している。また、消費税率引上げに伴う駆け込み需要が強まっている。先行きについては、輸出が持ち直しに向かい、各種政策の効果が下支えするなかで、家計所得や投資が増加し、景気の回復基調が続くことが期待される。ただし、海外景気の下振れが、引き続き我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動が見込まれる。

金融経済月報(2014年3月・日本銀行・2014年3月12日公表)

わが国の景気は緩やかな回復を続けており、このところ消費税率引き上げ前の駆け込み需要もみられている。先行きのわが国経済は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要とその反動の影響を受けつつも、基調的には緩やかな回復を続けていくとみられる。輸出は、海外経済の回復などを背景に、緩やかに増加していくと考えられる。国内需要については、公共投資は、当面増加傾向をたどったあと、高水準で横ばい圏内の動きとなっていくとみられる。設備投資は、企業収益が改善を続けるなかで、緩やかな増加基調をたどると予想される。個人消費や住宅投資は、振れを伴いつつも、基調的には、雇用・所得環境の改善などに支えられて、底堅く推移するとみられる。こうしたもとで、鉱工業生産は緩やかな増加基調をたどると考えられる。

山梨県金融経済概観(2014年3月・日本銀行甲府支店・2014年3月12日公表)

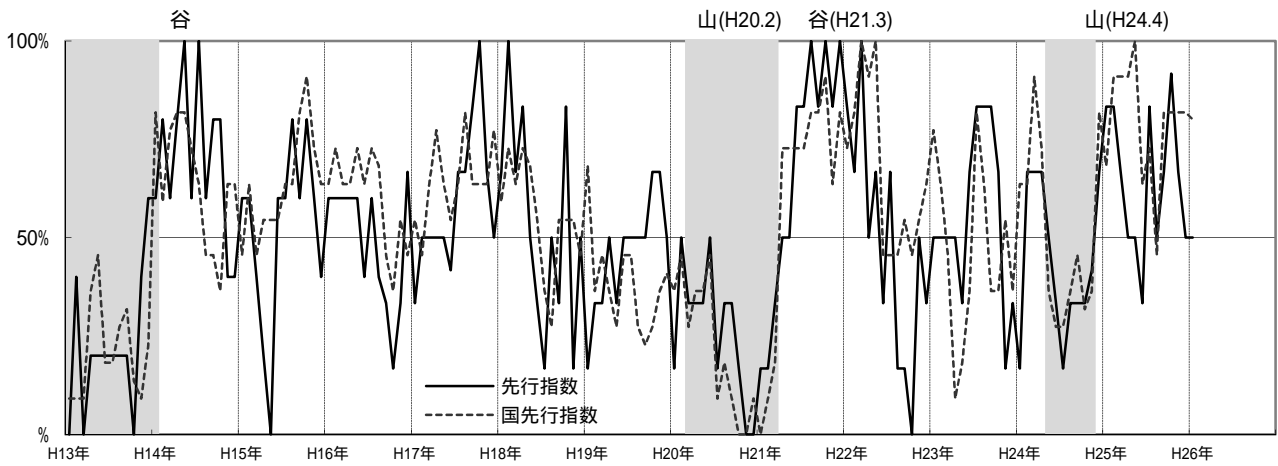
県内景気は、緩やかに回復している。一部では大雪によるマイナスの影響がみられている。

景気動向指数(平成26年1月分・内閣府経済社会総合研究所・平成26年3月19日公表)

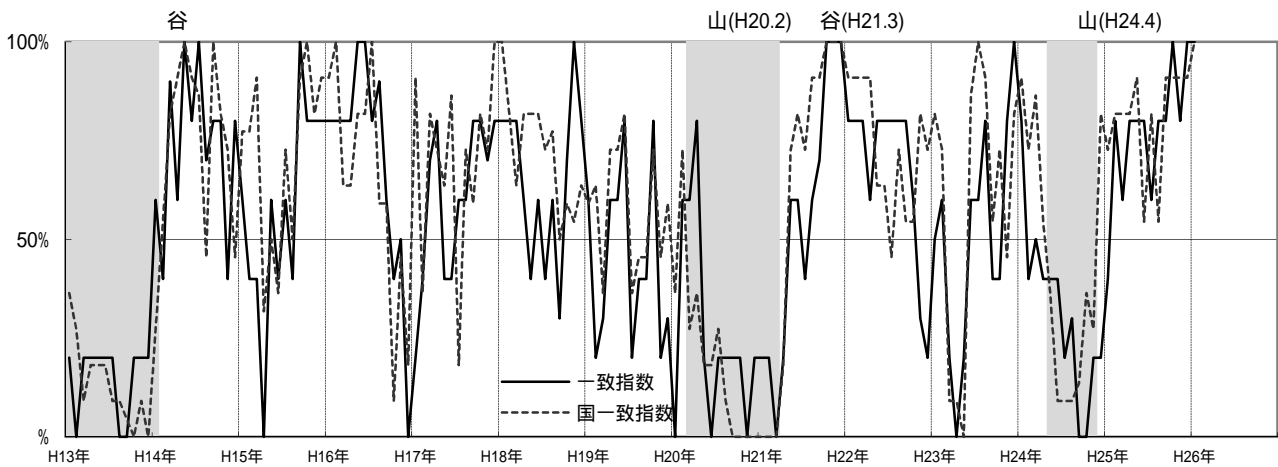
景気動向指数(CI一致指数)は、改善を示している。(http://www.esri.cao.go.jp/stat/di/di.html)

図表2 山梨県景気動向指数グラフ

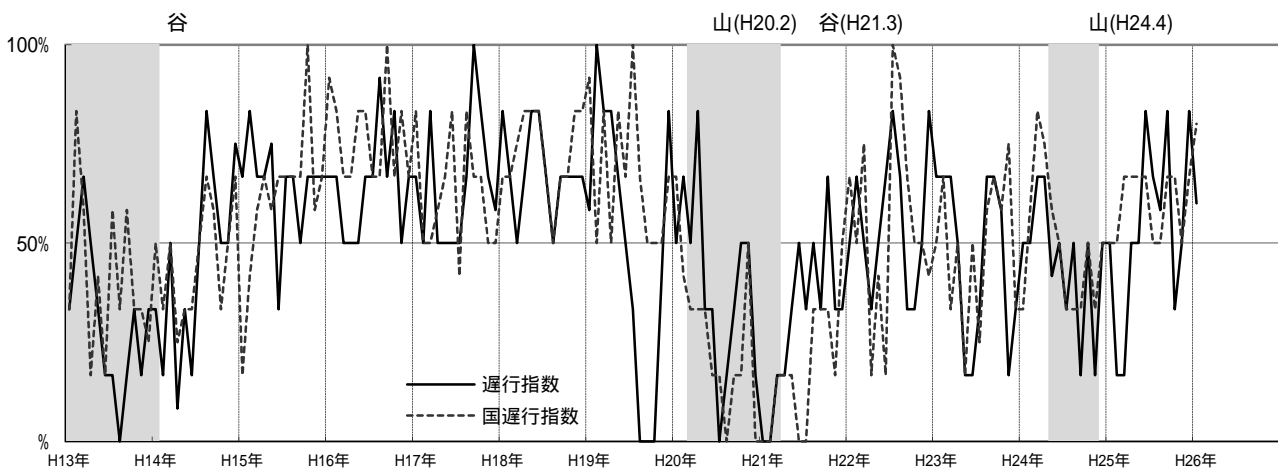
(先行指数)



(一致指数)



(遅行指数)



グラフ中の山・谷は内閣府発表による全国の景気基準日付です。

図表3 山梨県景気動向指数指数表

(先行指数)

		単位(%)											
西暦	和暦	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2004	H16	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0	40.0	60.0	40.0	33.3	16.7	33.3	66.7
2005	H17	33.3	50.0	50.0	50.0	50.0	41.7	66.7	66.7	83.3	100.0	66.7	50.0
2006	H18	66.7	100.0	66.7	83.3	50.0	33.3	16.7	50.0	33.3	83.3	16.7	50.0
2007	H19	16.7	33.3	33.3	50.0	33.3	50.0	50.0	50.0	50.0	66.7	66.7	50.0
2008	H20	16.7	50.0	33.3	33.3	33.3	50.0	16.7	33.3	33.3	16.7	0.0	0.0
2009	H21	16.7	16.7	33.3	50.0	50.0	83.3	83.3	100.0	83.3	100.0	83.3	100.0
2010	H22	83.3	66.7	100.0	50.0	66.7	33.3	66.7	16.7	16.7	0.0	50.0	33.3
2011	H23	50.0	50.0	50.0	50.0	33.3	66.7	83.3	83.3	83.3	66.7	16.7	33.3
2012	H24	16.7	66.7	66.7	66.7	50.0	33.3	16.7	33.3	33.3	33.3	41.7	66.7
2013	H25	83.3	83.3	66.7	50.0	50.0	33.3	83.3	50.0	66.7	91.7	66.7	50.0
2014	H26	50.0											

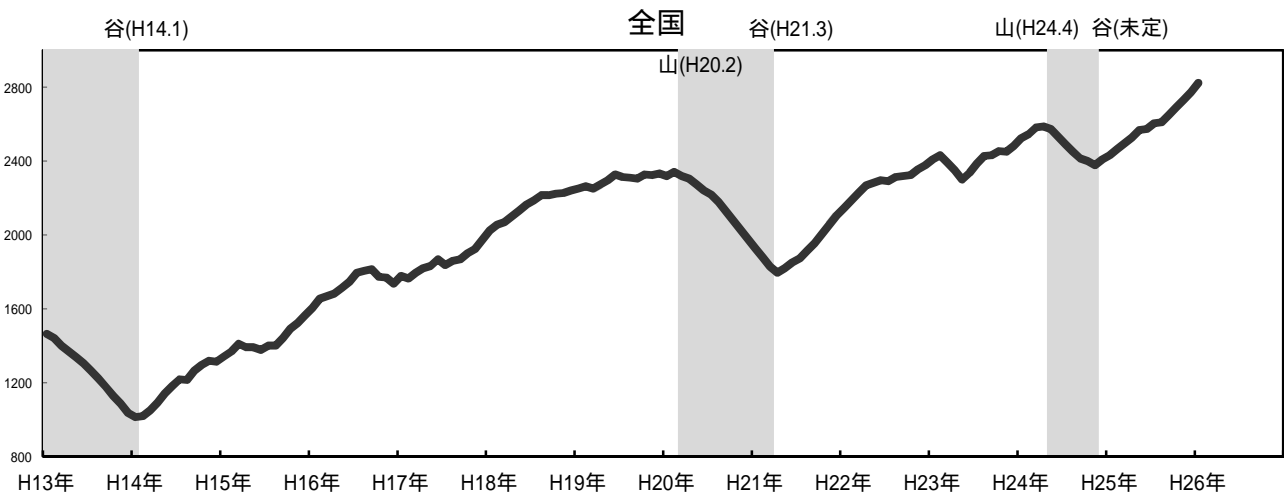
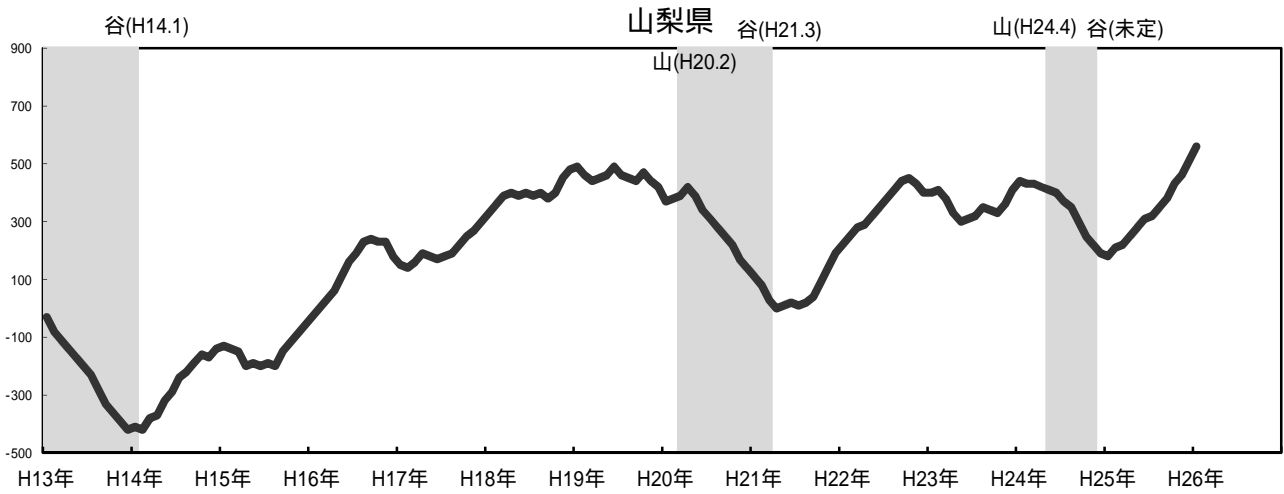
(一致指数)

		単位(%)											
西暦	和暦	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2004	H16	80.0	80.0	80.0	80.0	100.0	100.0	80.0	90.0	60.0	40.0	50.0	0.0
2005	H17	20.0	40.0	70.0	80.0	40.0	40.0	60.0	60.0	80.0	80.0	70.0	80.0
2006	H18	80.0	80.0	80.0	60.0	40.0	60.0	40.0	60.0	30.0	70.0	100.0	80.0
2007	H19	60.0	20.0	30.0	60.0	60.0	80.0	20.0	40.0	40.0	80.0	20.0	30.0
2008	H20	0.0	60.0	60.0	80.0	20.0	0.0	20.0	20.0	20.0	20.0	0.0	20.0
2009	H21	20.0	20.0	0.0	20.0	60.0	60.0	40.0	60.0	70.0	100.0	100.0	100.0
2010	H22	80.0	80.0	80.0	60.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	60.0	30.0	20.0
2011	H23	50.0	60.0	20.0	0.0	20.0	60.0	60.0	80.0	40.0	40.0	80.0	100.0
2012	H24	80.0	40.0	50.0	40.0	40.0	40.0	20.0	30.0	0.0	0.0	20.0	20.0
2013	H25	40.0	80.0	60.0	80.0	80.0	80.0	60.0	80.0	80.0	100.0	80.0	100.0
2014	H26	100.0											

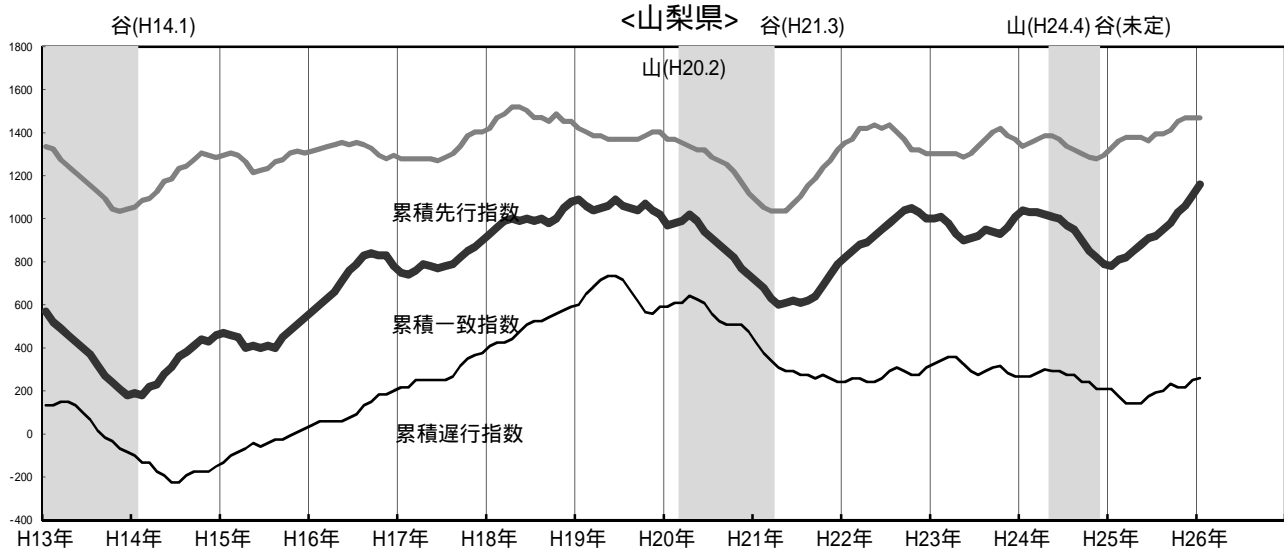
(遅行指数)

		単位(%)											
西暦	和暦	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2004	H16	66.7	66.7	50.0	50.0	50.0	66.7	66.7	91.7	66.7	83.3	50.0	66.7
2005	H17	66.7	50.0	83.3	50.0	50.0	50.0	50.0	66.7	100.0	83.3	66.7	58.3
2006	H18	83.3	66.7	50.0	66.7	83.3	83.3	66.7	50.0	66.7	66.7	66.7	66.7
2007	H19	58.3	100.0	83.3	83.3	66.7	50.0	33.3	0.0	0.0	0.0	41.7	83.3
2008	H20	50.0	66.7	50.0	83.3	33.3	33.3	0.0	16.7	33.3	50.0	50.0	16.7
2009	H21	0.0	0.0	16.7	16.7	33.3	50.0	33.3	50.0	33.3	66.7	33.3	33.3
2010	H22	50.0	66.7	50.0	33.3	50.0	66.7	83.3	66.7	33.3	33.3	50.0	83.3
2011	H23	66.7	66.7	66.7	50.0	16.7	16.7	33.3	66.7	66.7	58.3	16.7	33.3
2012	H24	50.0	50.0	66.7	66.7	41.7	50.0	33.3	50.0	16.7	50.0	16.7	50.0
2013	H25	50.0	16.7	16.7	50.0	50.0	83.3	66.7	58.3	83.3	33.3	50.0	83.3
2014	H26	60.0											

図表4 - 1 累積指数グラフ(一致)



図表4 - 2 累積指数グラフ(先行・一致・遅行)



(注1) グラフを見やすくするため、先行指数は1500、一致指数は600を加算しています。

図表5 山梨県景気動向指数個別系列の概要

	系列名	季節調整方法等	作成機関	資料出所
先行系列	1 鉱工業在庫率指数(逆)	X-12-ARIMA	山梨県企画県民部統計調査課商工業担当	鉱工業指数
	2 鉱工業生産指数(生産財)	X-12-ARIMA	山梨県企画県民部統計調査課商工業担当	鉱工業指数
	3 新規求人数(新規学卒を除く全数)	X-12-ARIMA	山梨労働局職業安定部	時系列職業紹介統計表
	4 新設住宅着工戸数	前年同月比	国土交通省	建築着工統計調査
	5 東証業種別株価指数(電気機器)	前年同月比	東京証券取引所	株価指数・株価平均
	6 法人企業景気予測調査・貴社の景況判断BSI(中小企業 全産業 翌期)	実数	甲府財務事務所	法人企業景気予測調査結果(山梨県分)
一致系列	1 鉱工業生産指数(鉱工業)	X-12-ARIMA	山梨県企画県民部統計調査課商工業担当	鉱工業指数
	2 電力大口使用量	X-12-ARIMA	東京電力(株)山梨支店	電灯・電力使用量(作成機関資料)
	3 所定外労働時間指数(製造業30人以上)	X-12-ARIMA	山梨県企画県民部統計調査課人口労働担当	県毎月勤労統計調査
	4 有効求人倍率(新規学卒を除く全数)	X-12-ARIMA	山梨労働局職業安定部	時系列職業紹介統計表
	5 県立美術館・富士ビクターセンター来館者数	X-12-ARIMA	山梨県教育委員会学術文化財課、山梨県観光部観光資源課	作成機関資料
遅行系列	1 実質法人企業設備投資(製造業)	X-12-ARIMA	財務省	法人企業統計季報
	2 第3次産業活動指数(対事業所サービス業)	X-12-ARIMA	経済産業省	第3次産業活動指数
	3 家計消費支出(二人以上の世帯)	X-12-ARIMA	総務省	家計調査報告
	4 常用雇用指数(製造業30人以上)	前年同月比 X-12-ARIMA	山梨県企画県民部統計調査課人口労働担当	県毎月勤労統計調査
	5 有効求職者数(逆)	X-12-ARIMA	山梨労働局職業安定部	労働市場の動き
	6 法人事業税(調定額)	X-12-ARIMA	山梨県総務部税務課	県税徴収状況(作成機関資料)

山梨県景気動向指数を作成する際に、独自に季節調整を行っています。
及び は、四半期データであるため、月次のDIを計算するため四半期に該当する3か月のそれぞれの変化量を等しいとして線形補間しています(4 - 6月期であれば6月に四半期値を代入)。

図表6 個別系列の数値

(先行系列)

系列名 年月	鉱工業在庫率指数(逆)	鉱工業生産指数(生産財)	新規求人数(新規学卒を除く全数)	新設住宅着工戸数	東証業種別株価指数(電気機器)	法人企業景気予測調査・貴社の景況判断BSI(中小企業全産業 翌期)
	季節調整値 %	季節調整値 H22=100	季節調整値 人	前年同月比 %	前年同月比 %	実数 %ポイント
H25. 1	81.6	80.9	4,152	126.0	110.1	-4.3
2	85.4	86.8	4,471	98.3	100.5	7.6
3	79.9	87.1	4,544	100.9	101.6	19.4
4	88.7	76.8	4,381	88.9	120.5	11.3
5	87.4	80.6	5,034	138.0	146.7	3.3
6	90.9	76.1	5,082	96.9	134.8	-4.8
7	82.7	77.2	4,662	94.0	146.8	1.7
8	89.1	83.8	4,787	155.6	144.2	8.1
9	94.9	84.8	4,738	166.6	159.5	14.6
10	82.7	89.4	4,816	138.1	157.7	12.2
11	92.7	88.5	4,986	118.9	164.0	9.7
12	86.8	93.1	4,914	125.3	152.5	7.3
H26. 1	76.0	95.9	5,148	106.1	136.2	-2.6

(一致系列)

系列名 年月	鉱工業生産指数(鉱工業)	電力大口使用量	所定外労働時間指数(製造業30人以上)	有効求人倍率(新規学卒を除く全数)	県立美術館・富士ビジターセンター来館者数
	季節調整値 H22=100	季節調整値 万kWh	季節調整値 H22=100	季節調整値 倍	季節調整値 人
H25. 1	82.6	14,190	85.9	0.65	31,011
2	85.4	14,190	87.5	0.67	31,325
3	91.4	13,813	90.2	0.69	31,107
4	83.4	14,039	95.5	0.71	31,904
5	91.3	14,109	92.0	0.74	31,641
6	86.6	14,110	91.9	0.77	32,499
7	88.1	14,444	93.5	0.78	31,697
8	89.1	14,613	94.8	0.79	32,116
9	85.9	14,678	97.5	0.78	33,067
10	89.0	14,933	97.3	0.82	33,090
11	88.9	14,925	100.0	0.85	33,347
12	90.4	15,015	104.0	0.89	35,056
H26. 1	95.5	15,013	114.0	0.94	42,065

(遅行系列)

系列名 年月	実質法人企業設備投資(製造業)	第3次産業活動指数(対事業所サービス業)	家計消費支出(二人以上の世帯)	常用雇用指数(製造業30人以上)	有効求職者数(逆)	法人事業税(調定額)
	季節調整値 百万円	季節調整値 H17=100	季節調整値 円	前年同月比 季節調整値 %	季節調整値 人	季節調整値 百万円
H25. 1	2,971,442	95.5	315,754	96.4	17,022	1,373
2	2,964,598	97.5	285,201	96.5	16,794	1,314
3	2,957,753	98.4	259,726	96.7	16,681	1,281
4	2,949,026	100.1	266,651	97.8	16,509	1,280
5	2,940,299	101.8	283,168	97.7	16,408	1,278
6	2,931,573	100.3	265,997	97.5	16,312	1,389
7	2,927,568	102.1	256,624	97.9	16,081	1,350
8	2,923,563	103.0	249,291	97.7	16,060	1,283
9	2,919,559	100.4	272,194	98.1	16,094	1,498
10	2,919,867	99.4	255,059	98.7	15,651	1,239
11	2,920,175	97.6	270,606	98.9	15,583	1,273
12	2,920,482	97.4	279,464	99.6	15,291	1,860
H26. 1		98.0	294,148	100.5	15,250	962

山梨県景気動向指数を作成する際に、独自に季節調整を行っています。

<参考> 山梨県CI(一致系列)

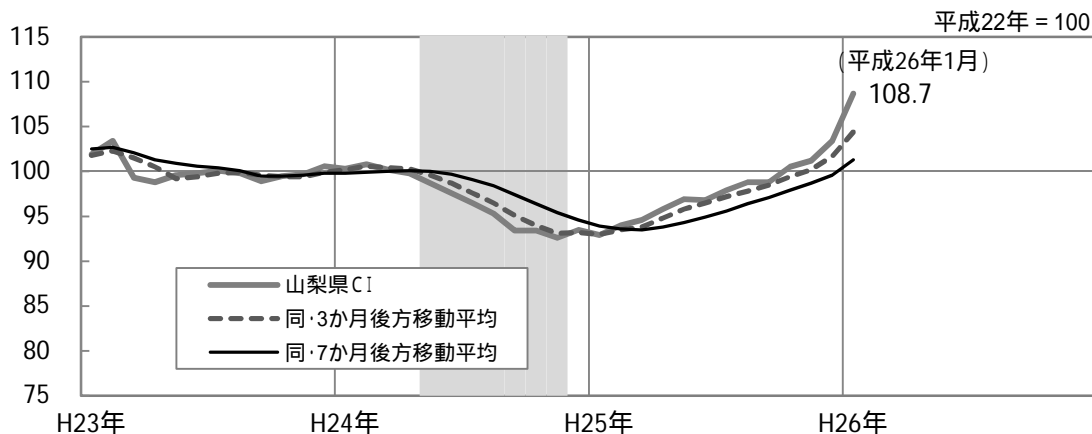
山梨県CIの構成指標は、山梨県DI一致系列と共通の指標としています。

1. 平成26年1月分山梨県CIの概要

1月の山梨県CI(H22 = 100)は、108.7となり、前月と比較して5.3ポイント上昇し、4か月連続の上昇となった。3か月後方移動平均は2.73ポイント上昇し、12か月連続の上昇、7か月後方移動平均は1.70ポイント上昇し、10か月連続の上昇となった。

山梨県CIは、指数の変化の大きさから、景気の拡張又は後退の大きさを読み取ります。
CIは不規則な変動も含まれていることから、足下の基調の変化をつかみやすい3か月後方移動平均と、足下の基調の変化が定着しつつあることを確認する7か月後方移動平均をあわせて掲載しています。

2. 山梨県CIの推移



3. 山梨県CI採用系列の寄与度^注

		平成25年					平成26年
		8月	9月	10月	11月	12月	1月
山梨県CI		98.8	98.8	100.5	101.2	103.4	108.7
	前月差(ポイント)	0.9	0.0	1.7	0.7	2.2	5.3
1 鉱工業生産指数(鉱工業)	前月比伸び率(%)	1.14	-3.59	3.61	-0.11	1.69	5.64
	寄与度	0.17	-0.64	0.59	-0.03	0.28	1.00
2 電力大口使用量	前月比伸び率(%)	1.17	0.44	1.74	-0.05	0.60	-0.01
	寄与度	0.39	0.16	0.58	0.00	0.20	-0.02
3 所定外労働時間指数(製造業30人以上)	前月比伸び率(%)	1.39	2.85	-0.21	2.77	4.00	9.62
	寄与度	0.15	0.34	-0.03	0.36	0.51	1.26
4 有効求人倍率(新規学卒を除く全数)	前月差	0.01	-0.01	0.04	0.03	0.04	0.05
	寄与度	0.05	-0.23	0.49	0.32	0.46	0.59
5 県立美術館・富士ピジターセンター来館者数	前月比伸び率(%)	1.32	2.96	0.07	0.78	5.12	19.99
	寄与度	0.18	0.38	0.01	0.12	0.69	2.53
3か月後方移動平均		97.8	98.5	99.4	100.2	101.7	104.4
	前月差(ポイント)	0.63	0.67	0.87	0.80	1.53	2.73
7か月後方移動平均		96.4	97.1	97.9	98.7	99.6	101.3
	前月差(ポイント)	0.84	0.69	0.84	0.77	0.93	1.70

注: 山梨県CIの前月からの変化(前月差)が、各採用系列からどの程度もたらされたのかを示した数値。

4. 山梨県CI時系列表

西暦	和暦	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2010	H22	95.7	95.6	98.0	97.4	97.6	100.4	101.5	103.6	104.2	102.4	102.0	101.6
2011	H23	101.9	103.4	99.3	98.8	99.6	99.8	100.1	99.8	98.9	99.5	99.7	100.6
2012	H24	100.3	100.8	100.2	99.8	98.7	97.6	96.5	95.3	93.4	93.4	92.6	93.5
2013	H25	92.9	94.0	94.6	95.8	96.9	96.8	97.9	98.8	98.8	100.5	101.2	103.4
2014	H26	108.7											

利用の手引き

景気動向指数(DI)の概要

DI(ディフュージョン インデックス)には先行、一致、遅行の3本の指数があります。先行指数は景気の先行きを示し、一致指数は景気にほぼ一致して動いて現状を示し、遅行指数は景気に遅れて動きを示します。一般的に先行指数は、一致指数に数箇月程度先行することから「景気の動きを予知」し、遅行指数は一致指数に数か月から半年遅れることから「景気の転換点や局面の確認」に利用することができます。

景気動向指数(DI)の作成方法

DIは、景気と対応性のある経済統計データを選定し、的確に季節の変動を除去した上で(季節調整)、3か月前の値と比べることにより作成します。

・DIの計算

各個別系列の数値を3か月前と比較して、増加したときは+を、減少したときは-を、変化のなかったときは0(もちあい)をつけます。(景気が良ければ減少し、悪ければ増加する性質のある逆サイクルの系列は増加を-、減少を+とします。)

その上で、先行、一致、遅行の各系列ごとに、採用系列数に占める拡張系列数(+の数)の割合(%)を求めます。

$$DI = \text{拡張系列数} / \text{採用系列数} \times 100 (\%)$$

(0(もちあい)は0.5としてカウントします。)

・季節調整

統計調査等によって集計された値には、毎年繰り返される規則的な増減(季節変動)が含まれることが多く、景気変動を把握するため、公表される統計の値から季節変動を除去することを季節調整といい、その方法として、米センサス局法X-12-ARIMAや前年同月比を用いています。

指数の見方

・景気の局面

DIでは景気の二局面「拡張」「後退」をみることができます。一般的に一致指数が概ね3か月連続で50%超であれば「拡張傾向」、逆に3か月連続で50%を下回れば「後退傾向」と考えられます。実際には個別系列の不規則な変動が合成されて大きなぶれが生じることもあります。

・景気の山・谷

景気の山は、一致指数で50%超が続く時期(拡張局面)から、50%未滿が続く時期への転換点、50%超から50%未滿へ向かう時期の近辺にあり、景気の谷は逆に50%未滿から50%超へと向かう時期の近辺にあるものと一般的には考えられます。

[参考]

DIは、景気が拡張傾向あるいは後退傾向のいずれにあるかを判断する指標であり、一致指数が50%を超え続け、方向としては拡張傾向にある場合でも、景気変化が緩慢で景気水準も低い場合は、実感として回復(拡張)感を感じられないこともあります。このため、現実の経済活動の中で感じ取れる「実感」とは異なることがあります。

参考指標「山梨県CI」について

山梨県CI(コンジット インデックス)は、構成指標の動き(変化量)を合成した指数で、過去と比較した相対的な景気変動の大きさを示します。景気の方角感を示す山梨県DIと併せて利用することにより、山梨県の景気の実況把握に資することを目的とし、山梨県DIを補完する参考指標として、平成26年2月より公表を開始しました。

・山梨県CIの作成方法

山梨県CIの作成方法は、内閣府のCI作成方法に準じています。また、構成指標は山梨県DI一致指数と共通の指標としています。山梨県CIの作成方法を簡潔に述べると、山梨県DI一致指数の個別指標における前月比変化率を、過去の平均的な変動と比較することによって基準化し、それらの平均を求めて合成し、指数化します。

詳しくは内閣府のホームページをご覧ください。(<http://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/di/di3.html#link002>)

・山梨県CIの見方

山梨県CIの変化の大きさから、景気の拡張又は後退の大きさを読み取ります。CIには不規則な動きも含まれていることから、ある程度の期間の月々の動きをならしてみることが望ましく、統計表には、足下の基調の変化をつかみやすい3か月後方移動平均と、足下の基調の変化が定着しつつあることを確認する7か月後方移動平均をあわせて掲載しています。

・DIとの違い

DIが同じ数値で計測されたとしても、各採用系列が大幅に拡張していればCIも大幅に上昇し、各採用系列が小幅に拡張しているならばCIも小幅に上昇するため、CIはDIでは計測できない景気変動の大きさを計測することができます。

次回の公表：平成26年2月分の公表は平成26年5月7日(水)頃の予定です。

